

# 2025年3月期 第1四半期 決算補足説明資料



株式会社マツオカコーポレーション(証券コード 3611)

2024年8月8日



---

# 目次

---

**1**

**2025年3月期 第1四半期 決算概要**

**P2**

**2**

**2025年3月期 連結業績見通し**

**P11**

**1**

## 2025年3月期 第1四半期 決算概要

# 業績ハイライト

売上高	営業利益	為替差損益調整後 営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
15,175 百万円 前期比 +12.1 %	▲190 百万円 前期比 — %	921 百万円 前期比 +5.1 %	1,423 百万円 前期比 +15.9 %	780 百万円 前期比 +28.6 %

## 増減要因

- 2025年3月期第1四半期は、期初想定より円安が進んだことで、海外工場コストが増加し、営業利益はマイナスとなったものの、売上高、為替差損益調整後営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比でプラス、事業状況は堅調な推移となった。アパレル業界における流通在庫の解消は想定通りに進んでおり、現中期経営計画の第1期に新設した、ベトナムとバングラデシュの工場における生産キャパシティ拡大を計画より早く進められたことから、第2四半期以降における受注は増加する見通しである。
- 売上高は、品目別ではカジュアルウェアと生地加工事業が好調、全体を牽引し前期比で12.1%の増加。
- 営業利益は、期初に想定していた為替レートと比較して円安が進行したことで、海外工場コストが増加しマイナス。
- 本業の状況を表す為替差損益調整後営業利益は、本業が堅調に推移し、前期比で5.1%の増加。
- 経常利益は、堅調な事業状況に加え、第1四半期では円安の進行から為替差益が発生し、前期比で15.9%の増加。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、堅調な事業状況を背景に前期比28.6%の増加。

※ 為替差損益調整後営業利益は、当社本業における実力値を判断するために算出した、当社独自の指標であります。詳細は本資料の9頁をご参照下さい。

# 2025年3月期第1四半期 連結損益概要

(単位：百万円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	増減	増減率
売上高	13,543	15,175	+1,632	+12.1%
販売枚数(縫製事業)	10.3百万枚	10.4百万枚	+0.1百万枚	+0.7%
販売ヤード数(生地加工事業)	3.6百万ヤード	4.2百万ヤード	+0.5百万ヤード	+14.8%
営業利益	335	▲190	▲526	-%
為替差損益調整後営業利益	876	921	+45	+5.1
経常利益	1,227	1,423	+195	+15.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	607	780	+173	+28.6%

為替レート		2024年3月期 第1四半期		2025年3月期 第1四半期	
		(23/3) 子会社	(23/6) 当社	(24/3) 子会社	(24/6) 当社
<円/USD>	期中平均	132.4円	137.5円	148.6円	155.9円
	期末	133.5円	145.0円	151.4円	161.1円
<円/元>	期中平均	19.4円	—	20.6円	—
	期末	19.4円	—	20.8円	—

※ 当社グループのうち、期末決算において6月時点の為替レートを使用するのは、当社及びMYANMAR POSTARION CO.,LTD、その他の子会社は3月時点の為替レートを使用しております。

# 売上高（品目別・生産地域別）

- 品目別では、カジュアルウェアが前期比+12.7%増、生地加工事業が前期比+36.9%の大幅増収。一方で、ワーキングウェア及びインナーウェアは若干の減収。
- 生産地域別では、優秀なオペレーターを確保しやすく、安定生産が見込めるベトナムでの売上高が、新設した工場キャパの拡大につれて伸長。一方で、ワーキングウェア、インナーウェアを生産するバングラデシュの売上高は、若干の減収となった。

## 品目別売上高（対前期比）

(百万円)

品目	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	増減	増減率
カジュアルウェア	8,066	9,090	+1,024	+12.7%
ワーキングウェア	1,000	927	▲73	▲7.3%
インナーウェア	2,527	2,489	▲37	▲1.5%
生地加工事業	1,948	2,666	+718	+36.9%
合計	13,543	15,175	+1,632	+12.1%

## 生産地域別売上高（対前期比）

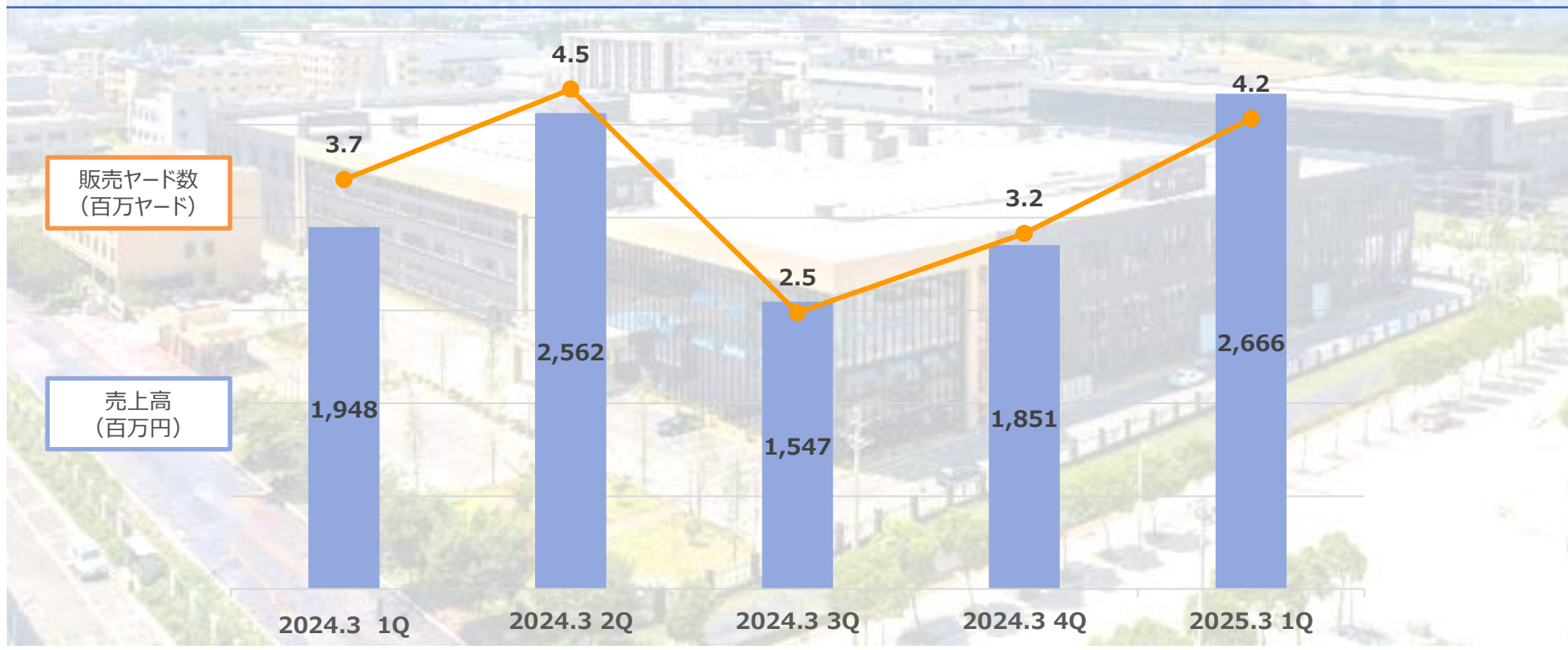
(百万円)

生産地	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	増減	増減率
中国	5,361	6,043	+681	+12.7%
ベトナム	3,357	4,215	+858	+25.6%
バングラデシュ	3,526	3,430	▲96	▲2.7%
インドネシア	759	862	+103	+13.6%
ミャンマー	537	623	+85	+15.8%
ASEAN諸国等 小計	8,181	9,131	+950	+11.6%
合計	13,543	15,175	+1,632	+12.1%

# 売上高（生地加工事業）

- 生地加工事業を手掛ける子会社2社（中国の嘉興徳永紡織品有限公司（JDT）及びベトナムのJDT VIETNAM CO.,LTD）は、オリジナルのPUフィルムの製造、生地設計開発、ラミネート、ボンディング等を行う、テキスタイルカンパニーです。
- 主要取引先は、欧米のアパレルメーカーであり、高品質な透湿防水生地の生産を行い、品質及び納期管理を徹底することで取引先の信頼確保に努め、着実に業績を伸ばしています。

生地加工事業の売上高と販売ヤード数（会計期間）



# 安定成長を続ける生地加工事業の概要

- 当社グループの生地加工事業は、主として高機能なアウトドアウェアやスポーツウェア等に利用される、透湿防水生地の生産を行う事業です。  
高機能な生地を使い、医療、介護用品等にも使用されています。

## APPAREL

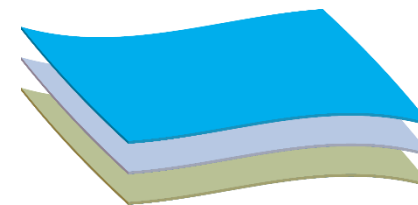
- 撥水、透湿、防水
- 軽量素材、ストレッチ素材
- 耐久性
- アウトドアウェア
- スポーツウェア
- カジュアルウェア etc.

## MEDICAL

- 10μフィルム
- 透湿、伸縮、安全性
- バンドエイド
- 防護服 etc.

## NURSING

- 耐久性
- 介護シート
- 介護エプロン
- 介護おむつカバー etc.



- 中国及びベトナムの子会社が行っており、外部繊維素材メーカーから調達した生地、自社生産した透湿防水フィルムを張り合わせる（ラミネート加工）で、高い防水機能と蒸れを抑える透湿機能を両立させ、付加価値を高める加工を行っています。
- 素材開発においては、顧客である国内外のアウトドアメーカーやアパレルメーカーと連携し、共同で消費者が求める高機能・高品質素材の開発を進めております。
- また近年は、環境負荷低減の観点から、化学品使用に関する世界各国の環境規制を遵守した素材開発及び生産手法の研究を進め、製品の優位性を高めるとともに顧客信頼度の向上を図っています。

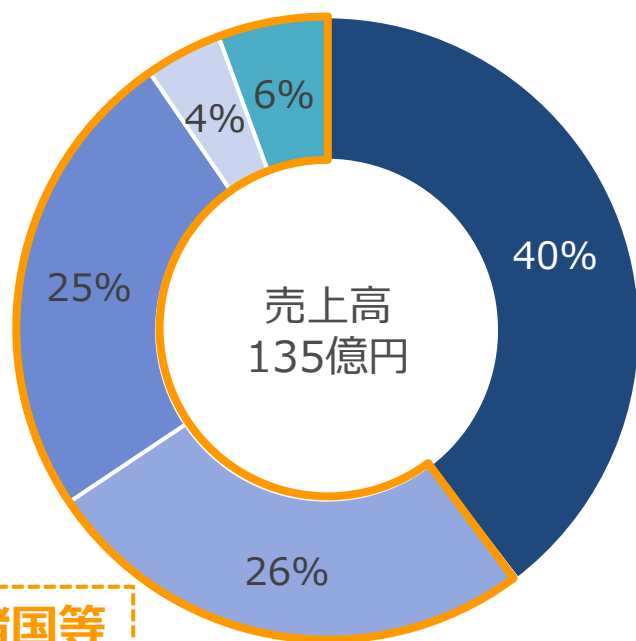


# 売上高（生産地域別比率）

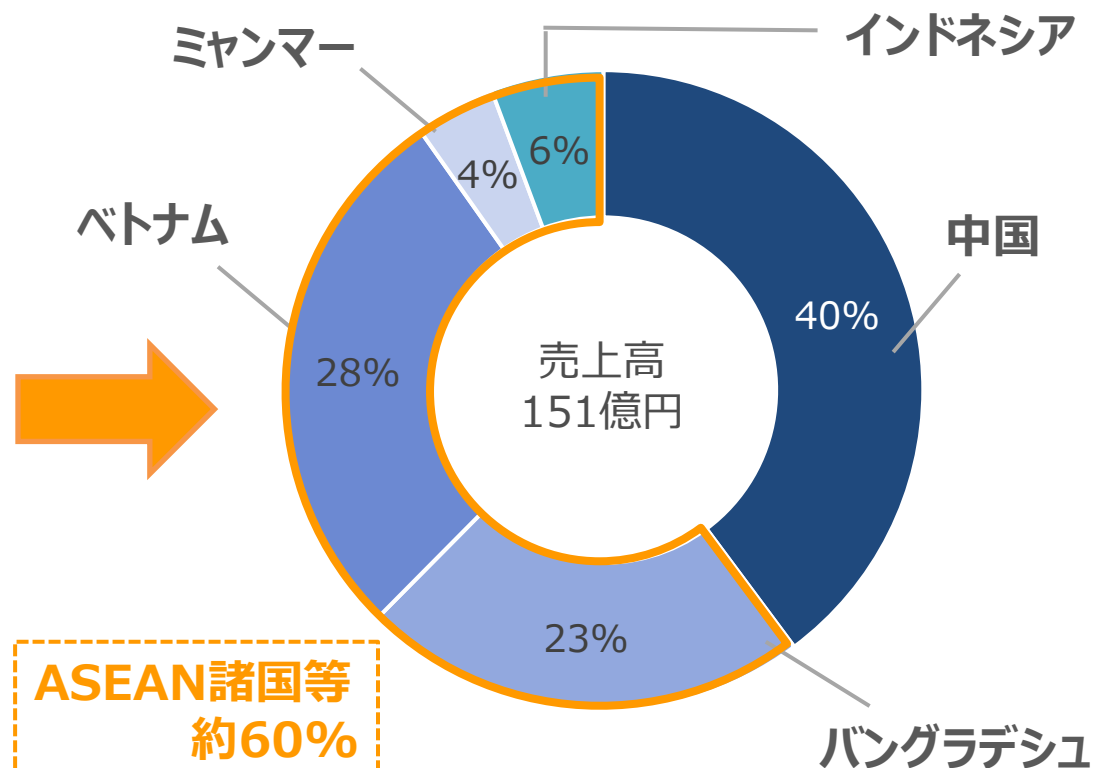
中期経営計画で掲げた生産地シフトの状況。

第1四半期のみでの比較では、前年同期比でASEAN諸国等の売上高比率に進捗はないものの、ベトナムでは新工場のキャパシティが拡大し、順調に売上高比率が上昇。

2024/3期 1Q（実績）



2025/3期 1Q（実績）



# 当社グループ事業における為替の影響及び「為替差損益調整後営業利益」について

## (為替差損益調整後営業利益)

- 当社グループの収支構造では、第1四半期のような円安ドル高局面においては、海外子会社損益計算書の製造原価及び販管費の円換算額が大きくなるため連結営業利益が減少します。一方で取引先との個別契約等による為替変動リスクヘッジの効果は、日常的な営業取引決済等から発生する為替差損益が、連結損益計算書において営業外収益として計上されます。これらの為替差損益は当社の営業取引（本業）からくる営業利益と一体のものであるという考えの下、営業取引から発生した為替差損益を調整した事業損益を算定し「為替差損益調整後営業利益」として開示しております。

- **計算式：為替差損益調整後営業利益 = 営業利益 + 営業取引から発生した為替差損益**

注：為替差損益の分類方法は以下の通りです。

営業取引から発生した為替差損益：営業取引決済から発生した為替差損益、売掛金・買掛金の換算替えから発生した為替差損益

財務取引から発生した為替差損益：現預金、貸付金及び借入金の換算替えから発生した為替差損益

(単位：百万円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	増減	増減率
売上高	13,543	15,175	+1,632	+12.1%
営業利益	335	▲190	▲526	-
為替差損益	849	1,557	+707	+83.2%
うち営業取引から発生したもの	540	1,112	+571	+105.7%
うち財務取引から発生したもの	309	445	+136	+44.0%
<b>為替差損益調整後営業利益</b>	<b>876</b>	<b>921</b>	<b>+45</b>	<b>+5.1%</b>
経常利益	1,227	1,423	+195	+15.9%

※ 為替差損益調整後営業利益は、営業利益に営業取引から発生した為替差損益を加算したものであり、当社本業における実力値を判断するために算出した当社独自の指標であります。

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

		2024年3月期	2025年3月期 第1四半期	増減	増減率
資産合計		65,697	66,365	+668	+1.0%
	流動資産	42,413	41,872	▲541	▲1.3%
	有形固定資産	19,457	20,519	+1,062	+5.5%
	その他	3,825	3,973	+147	+3.9%
負債合計		29,636	28,898	▲737	▲2.5%
	流動負債	19,558	18,803	▲755	▲3.9%
	固定負債	10,078	10,095	+17	+0.2%
純資産合計		36,061	37,467	+1,405	+3.9%
自己資本		33,263	34,457	+1,194	+3.6%
自己資本比率		50.6%	51.9%	+1.3pt	—
有利子負債残高		14,846	15,676	+829	+5.6%
D/Eレシオ		0.55倍	0.57倍	+0.02	—

**2**

## 2025年3月期 連結業績見通し

# 2025年3月期 通期 連結業績見通しの修正

- 2024年8月8日 第1四半期決算発表において、2025年3月期の通期業績見通しを修正。
- 現中期経営計画の第1期に新設した、ベトナムとバングラデシュの工場における生産キャパシティの拡大を、期初計画より早く進められたことから、第2四半期以降における受注が増加することにより、前回発表予想を上回る見込み。

(単位：百万円)

	2025年3月期 通期業績予想 2024年5月14日発表	2025年3月期 通期業績予想 2024年8月8日発表	増減	増減率
売上高	64,000	67,000	+3,000	+4.7%
営業利益	2,100	2,100	-	-
為替差損益調整後営業利益	3,800	4,600	+800	+21.1%
経常利益	3,600	4,400	+800	+22.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,600	3,000	+400	15.4%
1株当たり当期純利益	260.21円	300.24円		

為替レート		2024年6月期	
		(24/3) 子会社	(24/6) 当社
<円/USD>	期中平均	148.6円	155.9円
	期末	151.4円	161.1円
<円/元>	期中平均	20.6円	-
	期末	20.8円	-

# 2025年3月期 連結業績見通し

- アパレル業界における流通在庫の解消は想定通りに進んでおり、今秋頃には在庫調整期が終わる想定。
- アパレル製品の需要回復と共に第2四半期からの受注増加を見通し、25/3期は前年と比較して増収増益を見込む。

(単位：百万円)

	2024年3月期 通期業績	2025年3月期 通期業績予想	増減	増減率	2025年3月期 第1四半期	進捗率
売上高	60,176	67,000	+6,823	+11.3%	15,175	22.6%
営業利益	792	2,100	+1,307	+164.9%	▲190	—
為替差損益調整後営業利益	3,247	4,600	+1,352	+41.7%	921	20.0%
経常利益	4,493	4,400	▲93	▲2.1%	1,423	32.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,457	3,000	+542	+22.1%	780	26.0%

為替レート		2024年6月期	
		(24/3) 子会社	(24/6) 当社
<円/USD>	期中平均	148.6円	155.9円
	期末	151.4円	161.1円
<円/元>	期中平均	20.6円	—
	期末	20.8円	—

# 2025年3月期 連結業績見通し（前期比）

## 売上高

- アパレル業界における流通在庫の解消は想定通りに進んでおり、第1四半期においてベトナム、バングラデシュの工場における生産キャパシティの拡大を順調に進められたことから、第2四半期以降の受注が増加することにより増収の見通し。（前期比 +11.3%）

## 営業利益

- 海外子会社における生産性の向上及び新設工場の生産キャパ拡大による生産数量の増加を見込み、前期比で大幅な増益の見通し。（前期比 +164.9%）

## 経常利益

- 営業利益が大幅に増加するも、期首（151.4円）と期末の為替レート差から発生する現預金、貸付金及び借入金の換算替えから発生した為替差損益（財務取引から発生する為替差益 前期は約9億円計上）が剥落することを想定するものの、ほぼ前期並みの見通し。（前期比 ▲2.1%）

## 為替差損益調整後営業利益

- 営業利益に、売掛金・買掛金の換算替えから発生した為替差損益（営業取引から発生した為替差益）を加算した為替差損益調整後営業利益については、営業利益の大幅な増加を想定し、前期比では増益の見通し。（前期比 +41.7%）

## 親会社株主に帰属する当期純利益

- 経常利益は若干の減益見通しとなるも、前期は特別損失5億円を計上しており、前期比では増益の見通し。（前期比 +38.4%）

# 本資料の取り扱いについて

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において、取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。

かかるリスクおよび不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

本資料における表示方法について

数 値： 単位未満を切り捨て

比 率： 1円単位の金額で計算後、単位未満四捨五入

会計期間： 連結・当社、国内および海外子会社の会計期間は次のとおり

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通 期
連結・当社・ミャンマー子会社	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～翌年3月
その他の海外子会社	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～12月

本資料に関するお問合せ先  
株式会社マツオカコーポレーション  
総務部 広報IR課  
(E-mail. [info\\_ir@matuoka.co.jp](mailto:info_ir@matuoka.co.jp))  
(URL. <https://www.matuoka.co.jp/>)